

AOYUZU -Salon de Digital- 第7回 講演概要

2022年6月15日開催「AOYUZU -Salon de Digital」
第7回の講演概要をご紹介します。



デジタル庁
データ戦略統括 平本 健二氏

モデレーターとして、出光興産株式会社 執行役員
CDO・CIO 情報システム管掌 (兼)デジタル・
DTK 推進部長 三枝 幸夫氏を迎え、セミナーを開
催。「デジタル庁の目指すデジタル社会の展望」と
題して、デジタル庁のビジョンや取り組みをご紹介
いただいた。

【概要】

「技術の進歩により、何でも正確に表現でき、転送
できるようになった」のがデジタル社会。デジタル
トランスフォーメーションの特徴としては、スピー
ドが速いこと、SNS による情報発信やクラウドソー
シングにより誰もが参加できることがある。犯罪予
測システム、カプセル内視鏡、インプラントチッ
プ、お片付けロボットなど、日々進歩しているが、
一方で AI への過度な期待もある。

デジタル技術は怖い、という人もいるが、デジ
タル技術は「伸ばせる力、人の可能性を最大化でき
る」「人の仕事を奪うものではない」「誰にも優し
い」ものである。音声認識、手書き認識など、デジ
タルが色々なことをサポートしてくれる、という面
がある。

2050 年をイメージしてみると、シンギュラリテ
ィが 2045 年頃に来ると言われている。AI、エネ
ルギー（太陽電池）、コミュニケーションデバイス、
ロボティクスの組み合わせにより、まったく新しい
世界が到来する。また、日本の人口は 2 割減ると言
われているが、世界の人口は 2 割増えて、約 100 億
人まで伸びると言われている。今まで以上にグロー
バルマーケットを目指していかなければいけない。

働き方が大きく変わっており、テレワークが増え
たり、副業をする人が増えたりしている。専門家コ

ミュニティも会社を超えて広がっていくと考えら
れる。このように社会が変わっていく中で、デジ
タル庁としては「デジタルの活用により、一人ひ
とりのニーズに合ったサービスを選ぶことがで
き、多様な幸せが実現できる社会」を目指すビジ
ョンとしている。

スマートシティの話をしていると、コロナ禍
の前までは、これからは都市の時代だと言われて
いた。しかし今やリモートワークもでき、田園都
市にも注目が集まっている。それぞれの地域ごと
に、高齢化、災害対策といった課題を抱えている
が、それぞれに合わせた対策を、デジタル技術
を用いて行おうとしている。

この時代、皆がデジタルデータを何かしら使っ
ており、データの消費者でありつつ生産者でもあ
る。そうした社会の競争力の源泉は、21 世紀のイン
フラであるネットワークやデータ、その流通環
境である。デジタル庁としては「誰でもデータを
ストレスなく活用でき、デジタル技術が暮らしを
サポートしてくれる社会」を目指している。

これまで分断されていたデータを総合的に組み
合わせ、たとえばメタバースのような空間でどの
ようなサービスが提供できるかを考えたい。

基盤としてのデータ整備が重要。情報システム
の寿命は 10 年だが、データの寿命は 100 年。150
年先、200 年先を考えたデータ設計をしていかな
ければならない。そのために、政府相互運用性フ
レームワーク (GIF) というものを作って、デジ
タル社会のための連携ルールや技術規格、ひな型
をまとめている。

【今後の展望】

世界が日本に注目している、高齢化社会とい
うフィールド、高度に整備されたインフラ、センサ
ー等の IoT、AI、ロボティクスの技術、環境技
術など活かして推進していくべきである。その際
には、おもてなし、安心安全な社会、品質という
日本の強みに力を入れていくことが重要である。

本件に関するお問い合わせ先：

IIM ヒューマン・ソリューション株式会社
03-4333-1111 / web@iimhs.co.jp

AOYUZU -Salon de Digital- 第7回 講演概要

2022年6月15日開催「AOYUZU-Salon de Digital-」第7回の講演、第2部の概要をご紹介します。



東京海上日動火災保険株式会社
IT企画部
ビジネスプロセスデザイングループ
課長 太田浩輔氏



東京海上日動火災保険株式会社
IT企画部
ビジネスプロセスデザイングループ
西山正晃氏

モデレーター：

出光興産株式会社 執行役員 CDO・CIO
情報システム管掌(兼)デジタル・DTK推進部長
三枝 幸夫氏

「現場社員による“ラストワンマイル”業務の効率化」と題し、東京海上日動火災保険株式会社における、Power Automateの活用による「個人の成長」を「会社の成長」につなげる事例を紹介いただいた。

【概要】

東京海上日動火災では、現場社員による業務効率化をPower Automateの活用により実現した。その結果、「自ら課題を見つけ解決できる人材を増や」し、「ノーコード/ローコード開発を進展させることで、IT部門とビジネス部門の垣根をなくしていく」ことの必要性を確信した。全社展開はまだスタートラインに立ったばかりである。今後もデジタルを活用することで、「社員の意識」、「会社の文化」を変えていきたい。

● 問題意識

急速な社会環境の変化に対応するためには、デジタルの活用による「個人の成長」を実現し「会社の成長」に繋げることが不可欠と考えた。

● 具体策

Power Automateで「ラストワンマイル業務の効率化」を実現し、投資効果の薄い業務を自ら解決できる組織に変える。

● 導入スケジュール

- ① 導入期（約2か月） IT部門内
- ② トライアル期（約4か月） 本社の一部部署
- ③ 規模拡大期（約1年：現在） 東北展開→全国

● 大切にしていること

① コミュニティを作り、定着に向かって地道に取り組む

部門を越えた開発者のコミュニティの運用（TEAMSの活用）、セミナーやQAの徹底、研修資料の作成、アプリ開発と展開推進方法の両面からのサポート、等を実施した。

② 現場社員と共にプロジェクトを進める

社内副業制度を利用し、ビジネス部門の現場メンバーも社内推進プロジェクトに参加。原則フルリモートで週半日程度。また、単なるツールの利用ではなく、プロセスの再構築を目指す。

現場社員が参画することにより、現場ニーズをダイレクトに反映した開発ができる、生の声をリアルタイムに把握・反映できる、現場感覚を活かした展開ができる、などのメリットがあった。

③ 仲間を作り、連携しながら進める

社内ONE TEAMを目指し、また、組織・会社全体に浸透させるため、社内外の仲間作りを進める。そのためにTeamsをフル活用し、IT部門、社外ベンダー、ビジネス部門（現場社員）、社内他部署とコミュニケーションを図った。

● 今後の展望

使ってもらうための取り組みが大変。そのため、Power Platformファミリーの検討、ツールの活用・浸透、開発者からの照会・相談へのスムーズな対応、教育プログラムのコンテンツ追加と改善、などが課題である。

本件に関するお問い合わせ先：
IIMヒューマン・ソリューション株式会社
03-4333-1111 / web@iimhs.co.jp

本資料は弊社が登壇者に許可をいただき記載している内容となります。事前の許諾なく無断で複製、複写、転載、転用、編集、改変等は固くお断りしております。